

地域における外国人患者受入れ体制 (神奈川県事例) ～医療通訳の重要性と未来への展望～



特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ
(MICかながわ)
岩本 弥生

医療通訳とは？

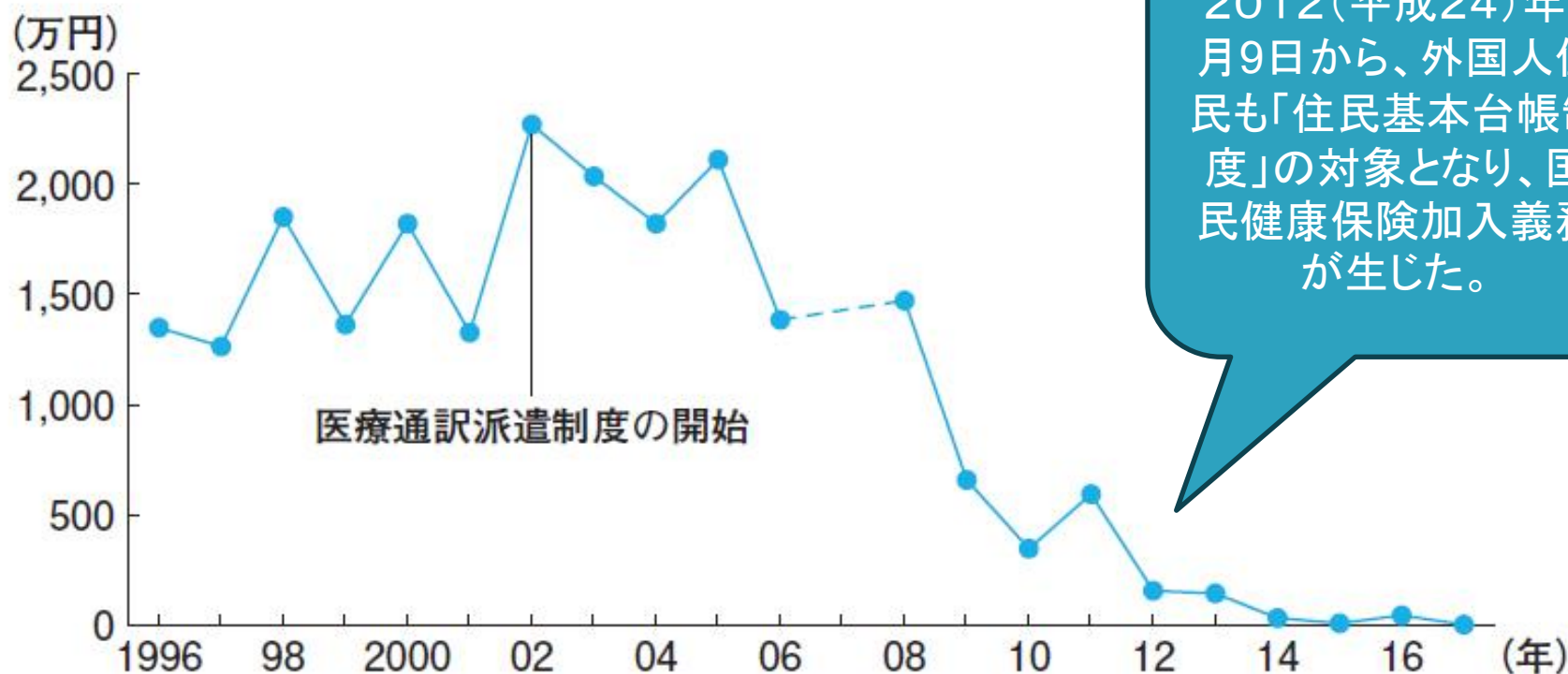
医療提供者と日本語でのコミュニケーションに
制限のある患者の間の通訳

正確性が要求されるため、逐次通訳で行われる
専門家どうしではなく、専門家と一般の人との橋渡し



医療通訳者は、日本語が母国語でない、若しくは日本語でのコミュニケーションに制限がある患者等に対して、日本語での医療・保健を安全かつ安心して提供するために、**通訳技能と医学知識を用いて相互理解を支援する専門職**と考えられる。一厚生労働省平成29年度「医療通訳認証の実用化に関する研究」研究班報告書より

神奈川県外国人未払い医療費補填事業による財政支出の推移



(出展：沢田貴志、在留外国人を地域で診る、2019. 第3314号、医学書院)

医療通訳者がいないと・・・

- 【ケース1】 3つめの病院で
- 【ケース2】 検査をただけなのに
- 【ケース3】 胃潰瘍で解雇？
- 【ケース4】 治療の選択
- 【ケース5】 余命は？
- 【ケース6】 学校を休んで

MICかながわと 神奈川県等との協働による 医療通訳派遣システム事業



1. 日本で暮らす外国人が、安心して
医療サービスを受けることができる
よう支援活動実施
2. 医療現場を中心とするコミュニティー
通訳活動の啓発と普及

1 医療通訳の養成

2 医療通訳の派遣

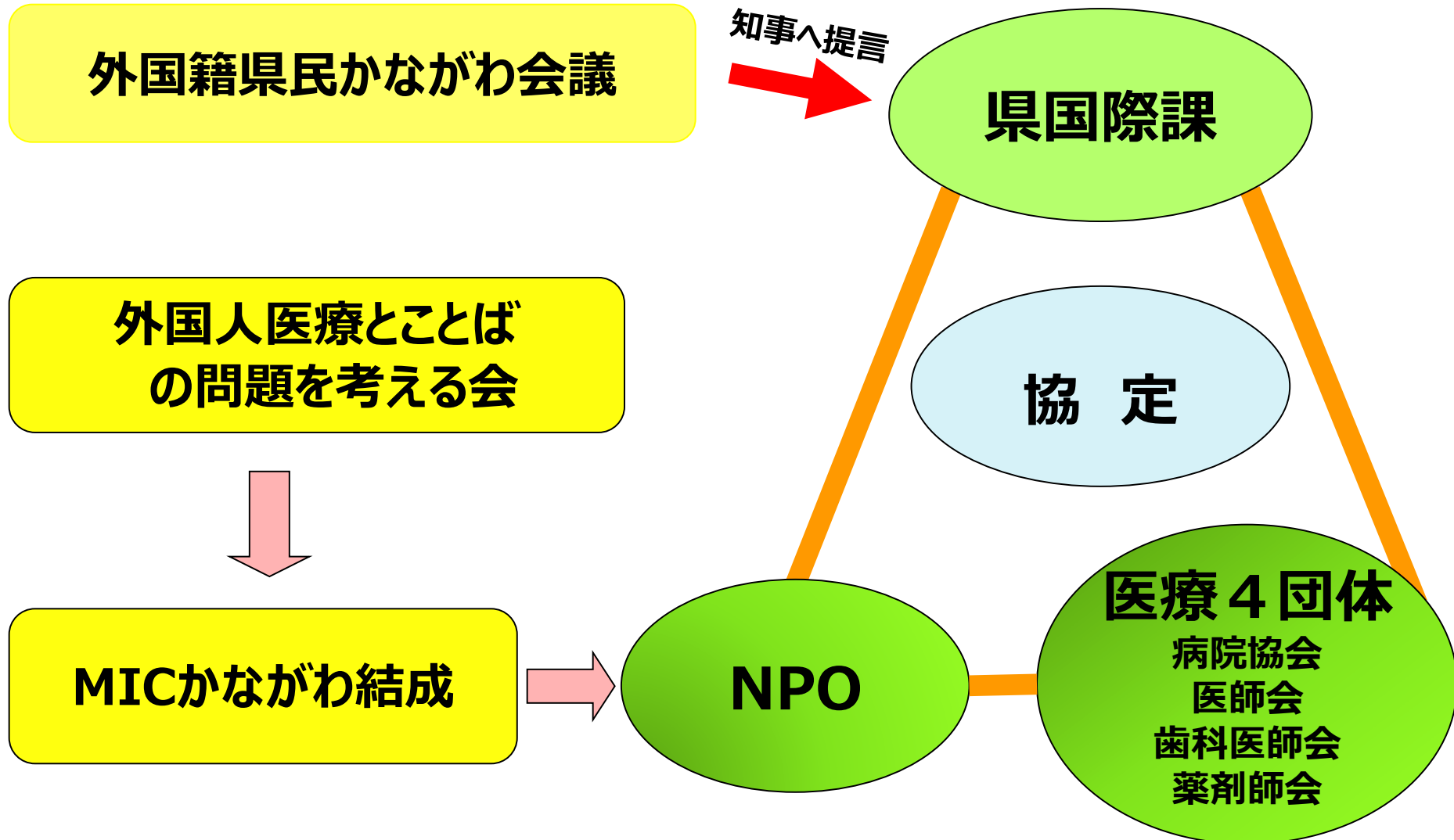
- ①県との協働 ②MIC独自（県内・県外、在宅医療を含む）
- ③感染症（保健所） ④生保医療（横浜市）
- ⑤無料健康相談会（年5回） ⑥精神保健福祉
- ⑦ヤングケアラー通訳支援

3 医療以外の一般通訳の派遣

- ①県国際課から受託（公的機関で）
- ②その他MIC独自

4 医療通訳養成講座への講師派遣

神奈川県医療通訳システムの始まり

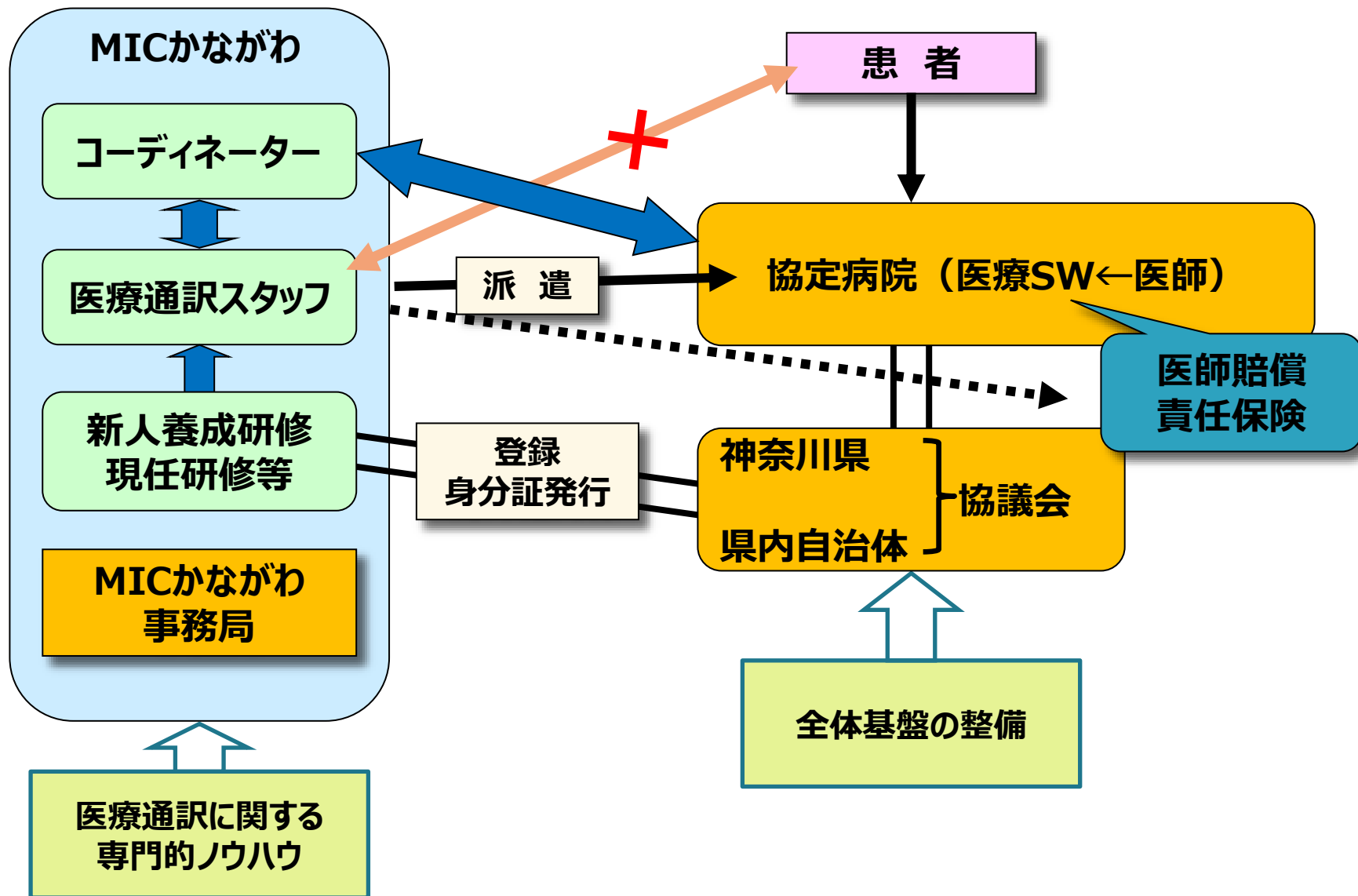


神奈川県医療通訳システムのあゆみ

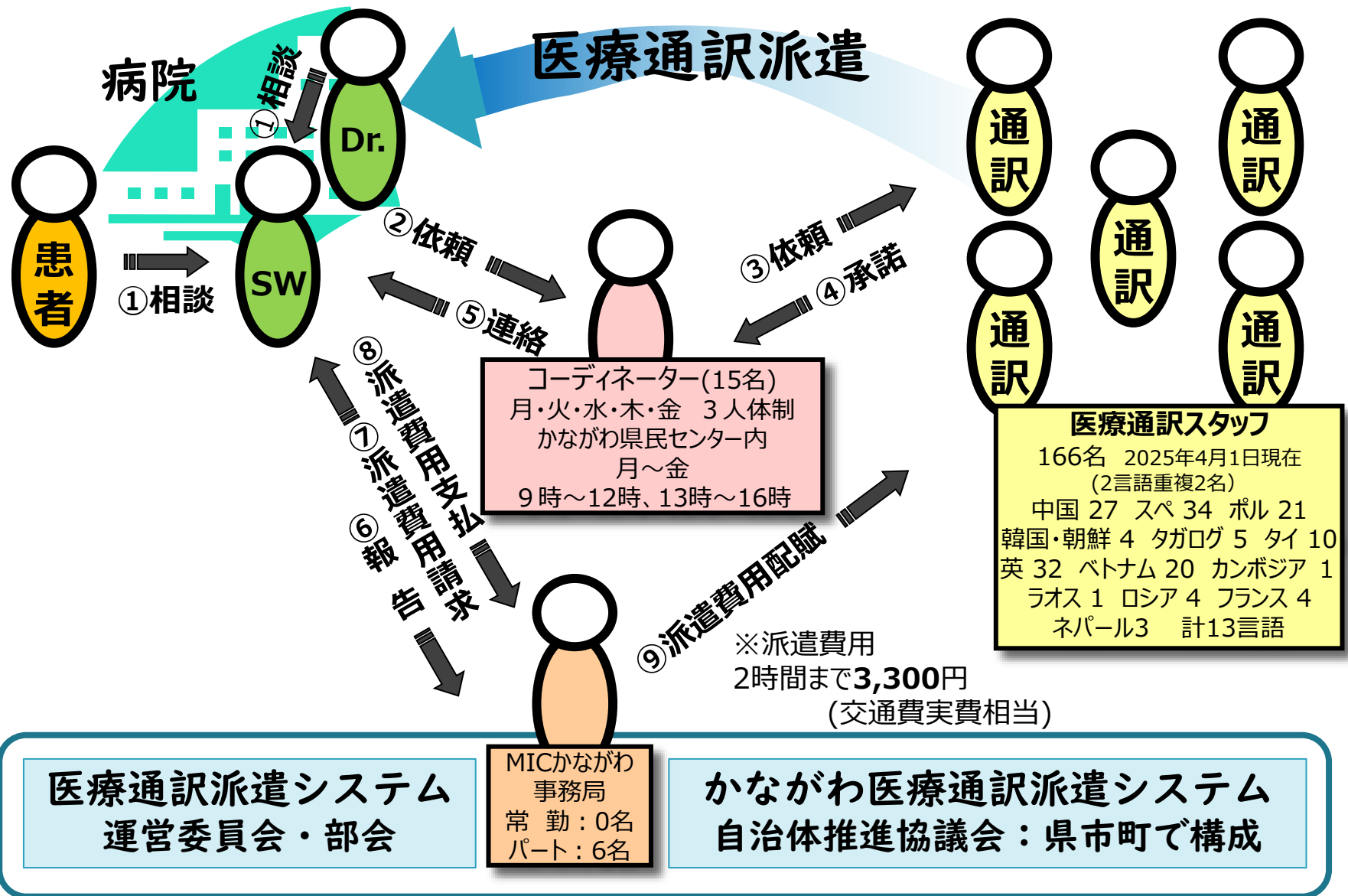


- 1999年 2月 神奈川県社会福祉協議会が医療関係者等と「外国人医療とことばの問題を考える会」を発足
- 2000年10月 外国籍県民かながわ会議の提言：医療通訳の制度化の検討を
- 2001年 4月 医療通訳派遣制度検討委員会が派遣システムについて検討開始
- 2002年 4月 MICかながわ設立
- 8月 県医療通訳派遣モデル事業開始
- 2003年 神奈川県とMICかながわが協働事業開始
(県のボランティア活動推進基金から1,000万円交付) 5年間
- 2008年 通訳派遣経費3,000円を病院が負担(一部患者負担)
- 2009年 県内の市町(一部)も間接経費を負担
- 2011年 病院も間接経費を負担
- 2018年 4月 「MICかながわ医療通訳派遣事業」の県内医療機関を「医療通訳派遣システム事業」に統合
通訳派遣経費変更(2時間3,000円、超過1時間につき1,000円)

医療通訳派遣システムのしくみ



医療通訳派遣システムの流れ



派遣先医療機関

県システムによる派遣先：72医療機関

考え方：県内11の第二次保健医療圏の中核的な病院

外国人住民が多いところ

県立の専門病院（こども、感染症、精神科など）

市立病院、総合病院

産婦人科がある病院

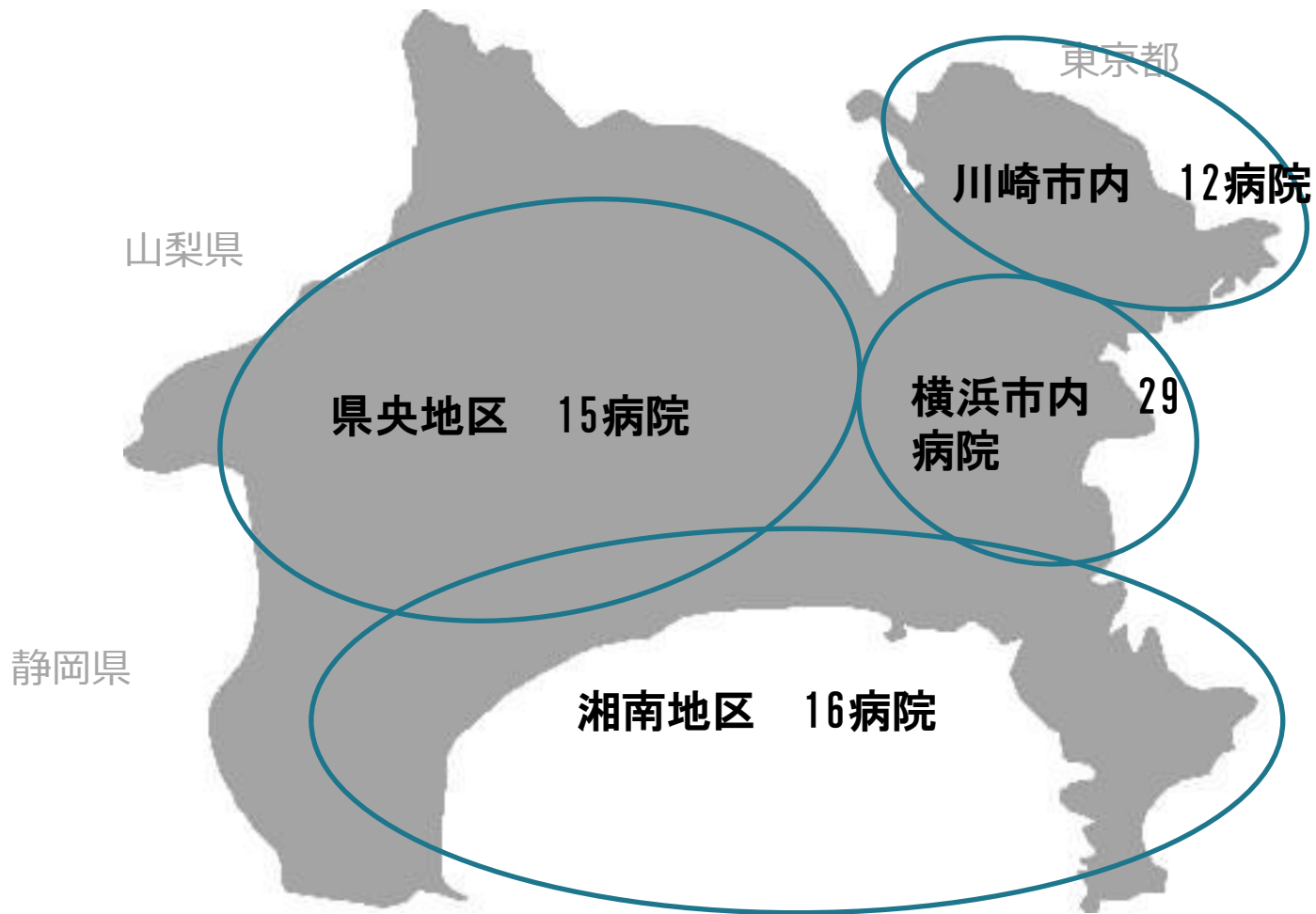
MICかながわとの独自協定による派遣先：18医療機関

- ・県システムに加入していない神奈川県内の医療機関で通訳派遣を希望する機関 14
- ・特定の曜日・時間帯に定例的に通訳を派遣している病院 2
- ・神奈川県外の病院 4（東京都）

医療通訳派遣システム 派遣先医療機関の拡大

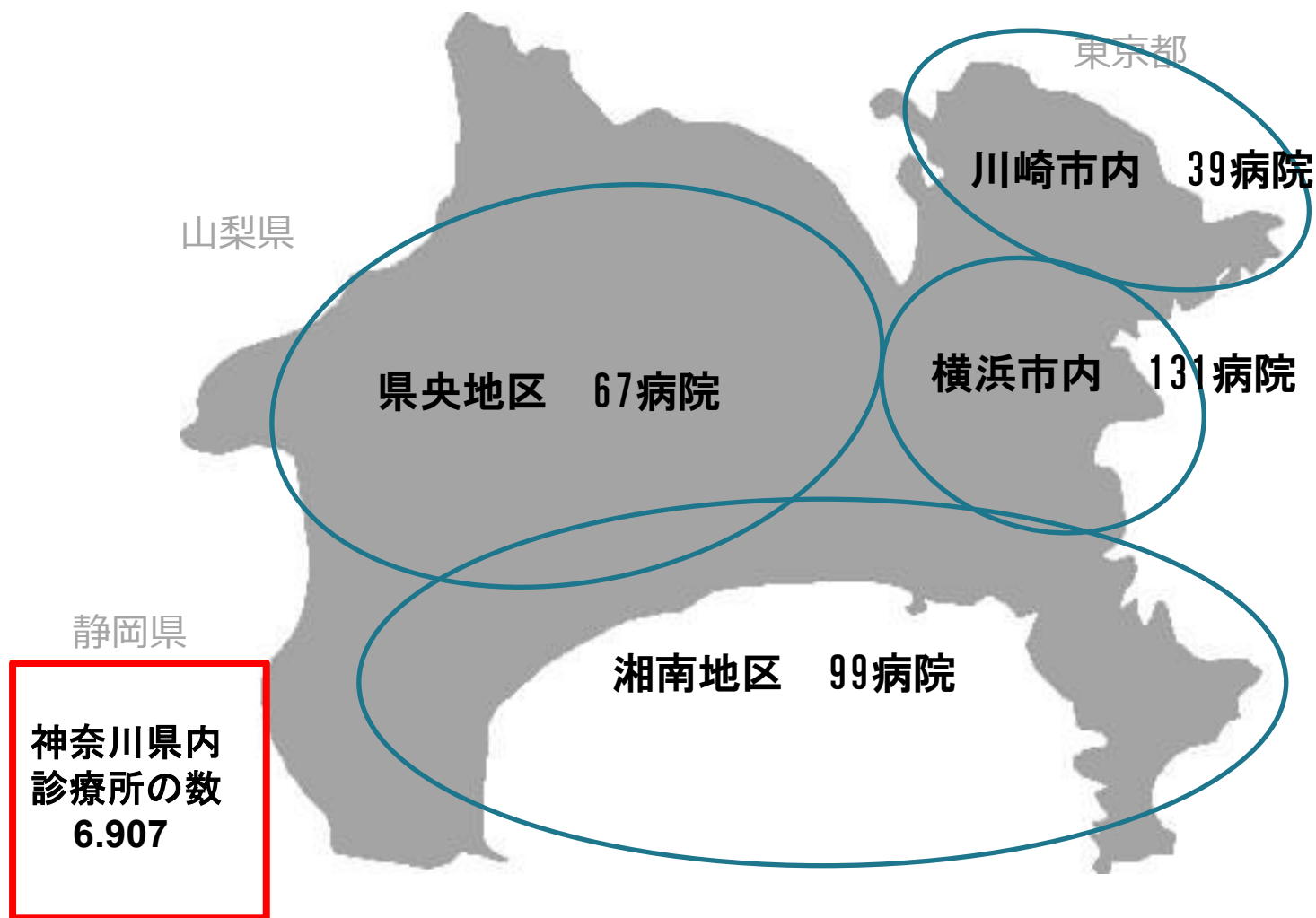
年度	協定医療機関数				
2002年8月	6病院				
2004年4月	16病院				
2007年4月	17病院				
2011年4月	32病院				
2012年4月	35病院				
2016年4月	37病院				
2017年4月	36病院（神奈川リハビリテーション病院と七沢リハビリテーション病院統合）				
2018年4月	69病院（MICかながわ独自協定医療機関と統合）				
2020年4月	70病院	横浜市内 県央地区	26病院 14病院	川崎市内 湘南地区	13病院 17病院
2021年4月	71病院	横浜市内 県央地区	27病院 14病院	川崎市内 湘南地区	13病院 17病院
2024年9月	72病院	横浜市内 県央地区	29病院 14病院	川崎市内 湘南地区	12病院 17病院
2025年4月	72病院	横浜市内 県央地区	29病院 15病院	川崎市内 湘南地区	12病院 16病院

- 県システム事業協定医療機関分布図



神奈川県内医療機関

・医療機関分布図

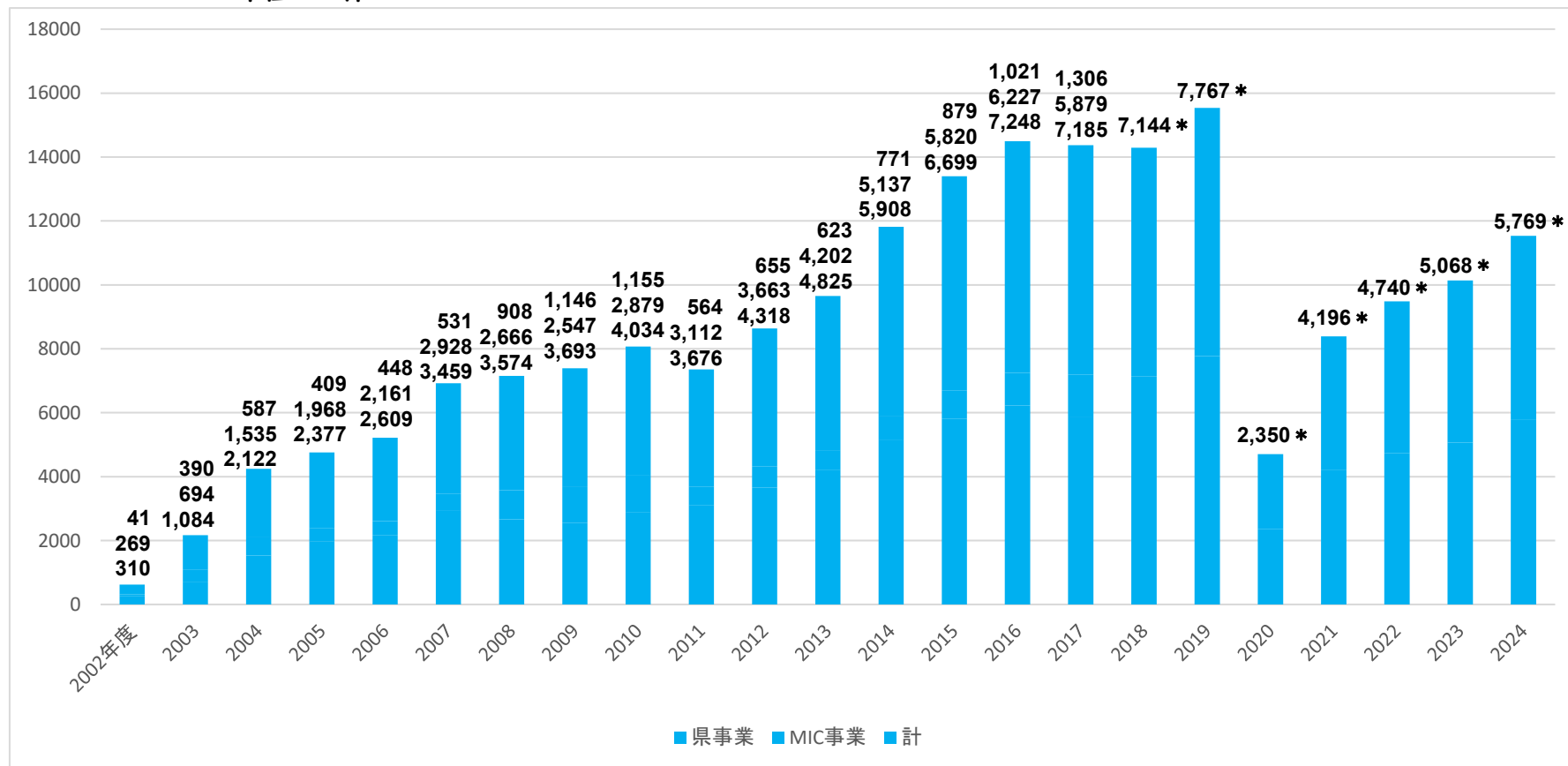


参考: 令和2年医療施設静態調査・厚生労働省令和2年10月

医療通訳派遣実績の推移

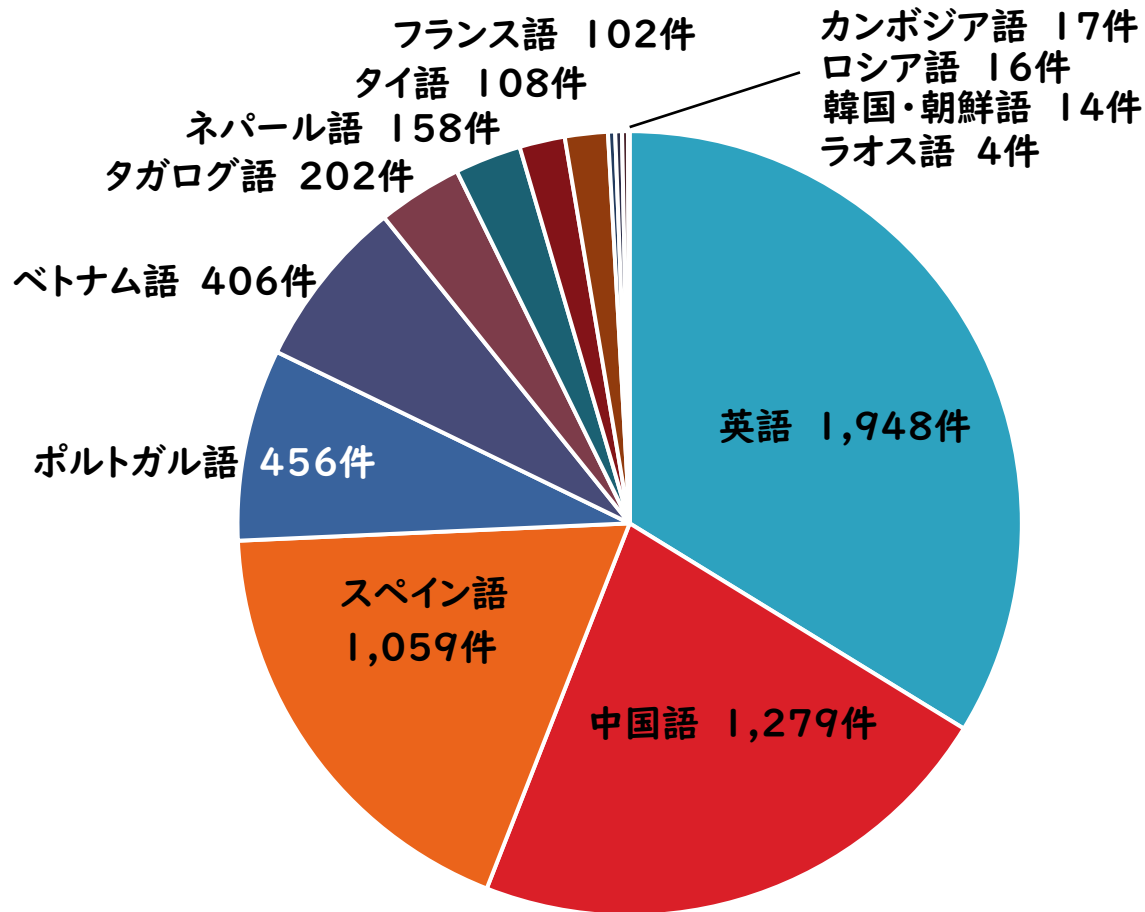
上段 MIC事業
中段 県事業
下段 合計
単位： 件

*2018年～MIC事業
を県事業に統合

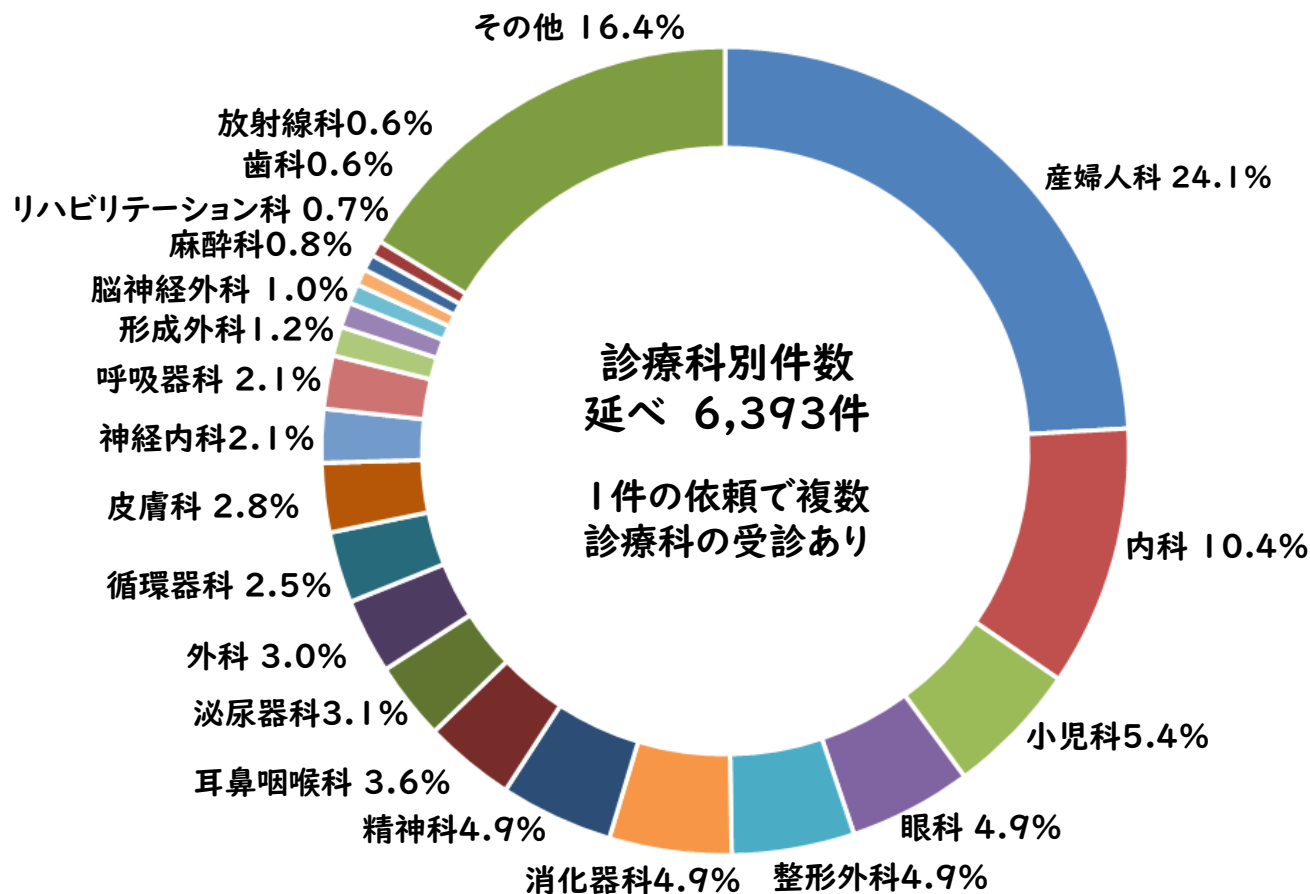


言語別派遣実績（2024年度）

県事業：5,769件



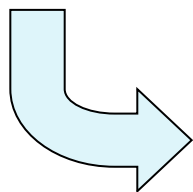
診療科別派遣実績 (2024年度)



医療通訳スタッフ登録の流れ

年1回 7月
県のたより他

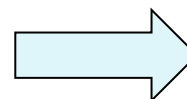
公募



養成研修

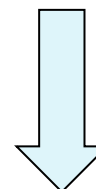
＜研修内容＞4日間 約20時間

- ・医療通訳派遣システムのしくみ
- ・MICかながわについて
- ・医療通訳の心得
- ・医療機関のしくみ
- ・医療制度
- ・基礎的な医療知識
- ・通訳技術
- ・外国人医療の現状
- ・多文化共生
- ・個人情報保護
- ・対人援助スキル
- ・通訳実技（ロールプレイ）



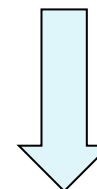
選考

MICかながわより
自治体推進協議会に
推薦



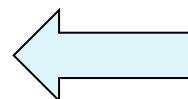
登録

自治体推進協議会（神奈川
県国際課）より委嘱状交付



研修派遣

スーパーバイザー同行
（1回目見学・2回目実地）



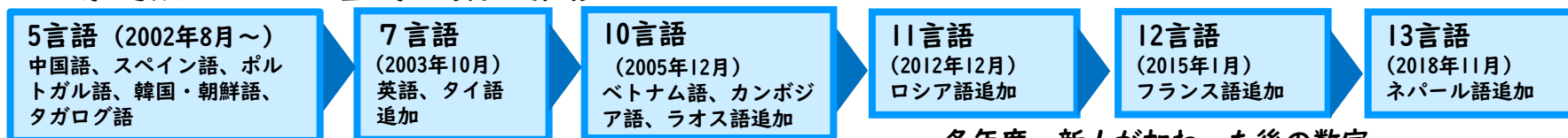
独り立ち

医療通訳の名札を
携帯し病院へ



派遣対象言語の拡大

医療通訳スタッフ登録人数の推移



各年度、新人が加わった後の数字

	中	スペ	ポル	韓国	タガ	タイ	英	ベト	カン	ラオ	露	仏	ネパ	計
2002	5	12	7	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	35
2003	15	22	14	8	5	7	7	-	-	-	-	-	-	78
2005	24	44	22	13	8	8	14	2	4	1	-	-	-	140
2011	32	50	29	8	13	9	27	10	3	2	-	-	-	183
2012	32	45	33	7	13	11	26	11	3	2	5	-	-	183
2013	30	41	28	5	9	9	24	7	2	2	5	-	-	157
2014	38	44	27	8	11	13	31	8	2	1	5	1	-	189
2015	37	43	25	8	12	12	33	9	2	1	5	1	-	188
2016	37	47	26	8	15	12	38	14	2	1	8	1	-	209
2017	41	41	22	8	13	13	37	15	2	1	7	4	-	204
2018	38	42	21	7	9	13	41	17	2	1	7	4	2	204
2019	46	42	19	6	9	12	44	17	2	1	6	4	4	212
2020	43	44	24	6	9	12	41	20	2	1	5	4	4	215
2021	38	45	24	5	8	12	38	19	2	1	4	6	4	206
2022	38	41	22	5	7	14	33	18	1	1	5	6	3	194
2023	30	38	23	5	6	12	33	16	1	1	3	4	3	175
2024	31	33	21	5	7	10	32	20	1	1	4	4	3	174

医療通訳スタッフの内訳

2025年4月現在 医療通訳スタッフ登録者 延べ166人

内、重複登録者2名（スペイン語／英語、英語／フランス語）

通訳スタッフの母語話者比率 37% 男性比率 14%

言語	中国語	スペイン語	ポルトガル語	韓国・朝鮮語	タガログ語	タイ語	英語
登録人数	27	34	21	4	5	10	32
母語話者	22	4	5	3	4	2	2
日本人	5	30	16	1	1	8	30
男性	1	10	6	0	0	0	3
女性	26	24	15	4	5	10	29
言語	ベトナム語	カンボジア語	ラオス語	ロシア語	フランス語	ネパール語	
登録人数	20	1	1	4	4	3	
母語話者	16	1	0	3	0	0	
日本人	4	0	1	1	4	3	
男性	2	0	0	0	1	0	
女性	18	1	1	4	3	3	

1. 医療通訳スタッフ

- (1) 医療通訳・コーディネーター現任者研修（年3回）
医療知識、通訳スキル、ロールプレイなど
- (2) 言語別自主勉強会

2. コーディネーター

- (1) コーディネーター研修（年2回）
- (2) 医療通訳・コーディネーター現任者研修（年3回）

1. 医療通訳スタッフの身分の保障
 - ・ 社会的認知
 - ・ 通訳報償金：2時間まで3,300円（税・交通費込）、超過1時間につき1,100円
2. 各方面への周知
 - ・ 医療機関：院内での周知徹底の難しさ
 - ・ 社会一般：支持基盤を広げるための広報の必要性
 - ・ 外国人：問い合わせに言語対応できる態勢の確立
3. 運営基盤の安定性
 - ・ 財政基盤：寄付に頼る財政状況
 - ・ 人材確保：事務局運営機能の安定、強化
4. 活動範囲の充実、拡大
 - ・ 緊急時・休日・夜間の派遣依頼への対応
 - ・ 初診時への派遣
 - ・ 県全体の医療機関への拡大
 - ・ 少数言語（ベトナム語、タガログ語、ネパール語など）通訳ボランティアの確保